

『日本動物誌』

—シーボルト没後 150 年—

学習院大学図書館

第 254 回 所蔵資料展示

FAUNA JAPONICA

SIVE

Descriptio animalium, quae in itinere per Japoniam, jussu et auspiciis
SUPERIORUM, QUI SUMMUM IN INDIA BATAVA IMPERIUM TENENT,
incepto, annis 1823-1830 collectis, notis,
observationibus et adumbrationibus illustravit

Fr. de Siebold.

CONJUNCTIS STUDIIS

C. J. Temminck et H. Schlegel

pro vertebratis

atque

W. DE HAAN

pro invertebratis

elaborata.

REGIS AUSPICIIS EDITA.

LUGDUNI BATAVORUM.

1842.

APUD A. ARNZ et SOCIOS.



学習院大学図書館所蔵貴重書

シーボルト 『日本動物誌』

Philip Franz von SIEBOLD

FAUNA JAPONICA (ファウナ・ヤポニカ)

1833-1850, 4vols.

鳥類篇	1844-1850	[展示資料右]
魚類篇	1842-1850	
甲殻類篇	1833-1850	[展示資料左]
哺乳類篇	1842-1844	
爬虫類篇	1834-1838	

日本の動物に関する最初の体系的な研究書。

シーボルトが 1823 年から 1829 年に採集した膨大な動物標本や、日本人絵師川原慶賀などの描いた下絵をもとに、ライデン博物館の 3 人の研究者 (C.J. Temminck, H. Schlegel, W. De Haan) の協同研究により完成された。シーボルトは標本の収集、データ記録、発送、研究委託などを行った責任者であり、著者ではない。

1833 年から 1850 年の 17 年間にわたり 42 分冊刊行され、本学所蔵は一部合冊製本され 4 巻となっている。

参考：国会図書館所蔵は 5 巻セット

京都大学所蔵は 4 巻セット (インターネット画像公開有)

本文頁の間に、精密で大きな写生石版画が挿入されている。

Philipp Franz von SIEBOLD 1796-1866 <没後 150 年>

江戸時代後期にオランダ東インド会社の日本商館付医員として来日したドイツ人医師。

●1823 年 長崎出島商館の医員として来日

以後 6 年間、出島勤務のかたわら、学塾廉診療所「鳴滝塾」を開設し、蘭学、西洋医学、科学全般の講義を行い、日本の蘭学者育成に貢献した。

また、オランダ政府より日本の総合的科学的調査の任務を与えられていたため、そのための資料として、門下生らの協力を得て、日本および周辺地域のあらゆる分野にわたって各種の文献・資料の蒐集に努力し、本国にこれを送った。

●1829 年 シーボルト事件 (国外追放)

江戸後期、ドイツ人医師シーボルトの国外追放事件。

任期を終えて帰国しようとした際に、オランダに送る積荷を載せた船が暴風雨のため難破をし、オランダに持ち帰る荷物の中に、国外持出しが禁止されていた日本地図や葵紋付衣服などが発見され、国外追放となった。

帰国後、日本から持ち帰った膨大な資料、標本、生植物をもとに研究を行い次の 3 点にまとめ、当時の日本研究に大きな業績を残した。

1. Nippon (日本) 1832~1851
<1897 刊本学所蔵、復刻版 1975 年刊地図展示中>
2. Fauna Japonica (日本動物誌) 1833~1850
<展示中>
3. Flora Japonica (日本植物誌) 1835~1870



Ph. Fr. von Siebold

表紙：『Fauna Japonica』 標題紙より

ラテン語の文字の背景に、十二支の動物や、麒麟など5種の瑞祥動物を表した東洋的な絵図となっている

「『日本動物誌』ーシーボルト没後 150 年ー」

学習院大学図書館 平成 28 年 10 月 20 日発行
担当：情報サービス課 青木みちる

本冊子は大学図書館ホームページでも公開しております

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/exhibition.html>